

南部の火祭り縁起

火祭りの由来

「南部の火祭り」の起源は定かではないが、江戸時代の初期に^{すみのくらしようい}角倉了以によって富士川の改修が行われて以後、舟運が盛んになった元禄時代頃からであろうと推定され、仏教の盂蘭盆会と習合して、盆の送り火や川施餓鬼として受け継がれてきたものと思われる。かつては、富士川下流全域で行われた行事であったが、いまは、南部の火祭りだけが規模を拡大して伝承されているのみである。

南部の火祭り 見どころ

午後6時30分 開会宣言

午後6時40分 南部火祭り太鼓

午後6時40分 投げ松明 (なげたいまつ)

10数mの竿先にのせた籠をめがけ、火をつけた松明を片手でグルグル回して投げ入れる伝統行事で、松明の飛び交うさまは、真暗な夜空を華麗に舞う精霊のようにも見え、見物客は幽玄の世界に迷い込んだような錯覚にとらわれる。

午後7時30分 灯籠流し (とうろうながし)

僧侶の読経に合わせ灯籠流しが行われ、ユラユラと富士川の川面に揺れる精霊舟の灯りは今、人々に万感の想いを込めて流れていく。

この「流し灯ろう」は一般にも販売している。

午後7時45分 大松明 (おおたいまつ)

町内外の各寺院から集めた塔婆を積み重ねて大松明に仕上げたもので、僧侶の読経に包まれ、約3万本の塔婆に点火されると、夜の川原を燦々と照らす塔婆の炎と低く流れる読経が闇の川辺に幽玄な響きをもたらしていく。

午後8時00分 百八たい (ひゃくはったい)

富士川の両岸約2kmにある百八つの円錐形のたき木の山に、午後8時、一斉点火されると、そのかがり火は、近くの山や空も真赤に染めて、炎は川面に映り、広い川原も火の海の饗宴に包まれていく。

午後8時15分 花火大会



流し灯ろう (当日午後5時より販売)
※事前販売なし



1基 1,000円
(50基限定 無くなり次第終了)



南部町火祭り実行委員会
(役場産業振興課内)
TEL 0556-66-2111



題字：金澤翔子

開催日

2026年 8月15日 (土) 午後3時～

※荒天時中止 (花火大会のみ延期予定)

会場：富士川河川敷
南部橋上下流



南部町公式HP

※会場内及び周辺での小型無人機（ドローン等）の使用は、実行委員会の許可を得たものに限りまのでご了承ください。
※お車でお越しの場合、中部横断自動車道 南部ICは大変混雑しますので、身延山IC、富沢ICをご利用ください。

主催：南部町火祭り実行委員会

協力：国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所、山梨県南部町

プログラム

午後3時～午後6時	ステージショー
午後6時30分	開会宣言
午後6時40分	南部火祭り太鼓
午後6時40分	投げ松明開始
午後7時30分	灯籠流し
午後7時45分	大たいまつ点火
午後8時00分	百八たい点火
午後8時00分	南部火祭り太鼓
午後8時15分	花火開始
午後8時15分	盆踊り
午後8時45分	花火終了



南部町公式LINE
受信設定時に「広報・イベント」にチェックを入れるとリアルタイムで配信情報が届きます。

救急依頼は
119番へ
お願いします。

※お車でお越しの場合、中部横断自動車道の南部ICは大変混雑します。身延山IC、富沢ICをご利用ください。

お問い合わせ

南部町火祭り実行委員会事務局 TEL 0556-66-2111 (代)